

科目名称：	社会的養護Ⅱ	
担当者名：	和泉 美智枝	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	講義	1
授業の目的・テーマ		
<p>「社会福祉」「社会的養護Ⅰ」といった福祉系科目において学んだ社会的養護・施設養護に関する基本的理解をもとに演習課題に取り組んでもらう。他職種の職員と協働しながら、入所している子どもに対しての生活環境を整備すること、日常的なかかわりを通して子どもとの信頼関係を構築し、子どもの健やかな成長と自立を援助できる保育者となれるよう学びを展開する。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>(1) 既習の養護Ⅰに関する基礎知識を再度確認しながら定着を図る。  (2) 事例を通して  ①対象者理解を深める（保育カンファレンスを軸に）ことが出来る。  ②地域における個々のそだちと自立の支援のあり方を学び、考察し、省察（グループワーク）へと発展させる。</p>		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。	
DP(2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。	○
DP(3)	幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(4)	学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身についている。	

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP(1)					0
幼児教育DP(2)		30	50	20	100
幼児教育DP(3)					0
幼児教育DP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》 児童福祉施設指導員	《経験年数1》 2年
	《内容2》 特別支援学校教諭	《経験年数2》 25年
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 「社会的養護Ⅰ」から学んだことを確認する。	養護Ⅰのテキスト・ノートを復習しまとめておく。	40分
第2回 子どもの権利養護	児童憲章を読んでまとめておく。	20分
第3回 保育士の役割(グループごとに保育の基本をディスカッションする)	保育所保育指針総則に目を通して感想をまとめておく。	20分
第4回 施設の暮らし①施設入所について	養護Ⅰから各種施設の概要をまとめておく。	30分
第5回 施設の暮らし②施設の生活について	養護Ⅰから各種施設について第4回の内容をまとめておく。	30分
第6回 入所児童の状況	養護Ⅰから入所型(居住型)を知る。	20分
第7回 子どもへの対応(被虐待、障害児)(グループワークで情報の共有をする)	虐待をうけている子の数や種を知っておく。	20分
第8回 自立への支援①基本的理解	事前配付プリント(自立への支援①基本的理解)を読んでまとめておく。	30分
第9回 自立への支援②自立支援の実際(乳児院、養護施設)(①②についてグループディスカッションをする)	事前配付プリント(自立への支援②自立支援の実際)を読んでまとめておく。	30分
第10回 家族や里親等との関わり	里親に関する事前配布プリントを読んでまとめておく。(新聞記事等)	20分
第11回 援助者として①役割と倫理、エンパワーメント等	コミュニケーションについての知識を整理し、まとめておく。(一般的なこと)	30分
第12回 援助者として②チームワーク	コミュニケーションについての知識を整理し、第11回の内容をまとめておく。	20分
第13回 対象者理解①記録について(意見交換をする)	実習記録簿から拾う「養護」についてまとめておく。	20分
第14回 対象者理解②記録の活用	実習記録簿から拾う「養護」について、第13回の内容をまとめておく。	20分
第15回 社会的養護の課題と展望	テキストの該当ページをまとめておく。	20分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。  
また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。

#### 成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。  
中間に1～2回小論文でも評価する(事例カンファレンスを核に)  
中間小論文(小テスト)30%、期末論文(提出課題)50%、グループワーク等の学習態度・積極的関与20%

#### 課題に対するフィードバック

各回の講義・演習の最後に振り返りをさせ、次時に生かす。  
振り返り内容については、2～3回のノート点検によって確認する。

#### 教科書・参考書

みらい×子どもの福祉ボックス 社会的養護Ⅱ 堀場純矢 編 みらい